

# 三河商人道

PART  
220

やはぎ設備株式会社

加藤 浩晃 君



青年部とは  
『ひとをつくり、人財を育成する場所』



## 【会社・仕事への思い】

大手サブコンの名古屋支社に就職し、9年を過ごしたとんとんさん。始発で現場に行き、終電に間に合わず現場に泊り、サービス残業、週に1回のお休み、睡眠時間は3、4時間…。貴重な週1回の休日は寝不足と疲労のためひたすら眠って過ごしたとか。とってもハードなサラリーマン生活を送ってみえたそうです。手がけた建物は岡崎市民病院、豊橋市民病院、ボストン美術館、グランコート名古屋など。大きな現場には多くの職人さんが見えますが、その職人さんを纏めるためによく怒っていたそうです。今と変わらない！笑

## 【青年部に入会されたきっかけ】

平成12年にお父様が体調を崩してしまい、現在のやはぎ設備を継ぐことになりました。職種は同じといえども、大型の医療機関やホテルの設備から住宅や公共の設備工事とでは大きく違い、ハードワークを過ごしていたとんとんさんは…エネルギーを持って余し、フラストレーションが溜まる日々だったそうです。考えただけで恐ろしい！矢田先輩と飯田先輩に誘われたことがきっかけで、その有り余るエネルギーの発散場所として青年部に入会しました。

## 【趣味など】

「ガーデニングと雑貨をやろうかな」ファンシーナチュラル発言にみんなびっくり！！でも、事業所にお伺いするととっても素敵な雑貨や植木鉢でした！鉢は不要になった資材をとんとんさんが加工、塗装をして、お花好きの奥様がお花を植えて仕上げるそうです。噂には聞いていましたが、本当、夫婦仲が良いんですねえ。羨ましいー！

## 【青年部とは…】

『ひとをつくり、人財を育成する場所』  
平成22年にひとづくり委員会委員長としてジュニエコに携わり、平成30年に会長としてあきんど塾を立ち上げ、卒業年度にもあきんど塾を見守っていただきました。“加藤浩晃”という本を見ると、青年部人生は赤ペンで重要！とマーカーしてあるような、今の“加藤浩晃”が完成するまでにとっても重要な時間だったそうです。自分を創り、人を創り続ける青年部人生だったんですね！



取材担当／人財育成委員会  
山口純一、鶴田実、加藤大地、大竹雄介、岡田麻希、鈴木信彦、前田千恵、櫻井喜朗、深田賢之、本田裕郎、小野悟、鈴木友則、倉橋玉喜、土屋宏之、服部邦章、小林正和、杉山恵理奈